

ネオリベラル・マルチカルチュラリズムと米墨国境地域の先住民族のトランスナショナル化—ヤキとクミアイの事例から—

福間真央 関西外国語大学

1990年代、アメリカとメキシコの国境地域の先住民族であるヤキとクミアイは民族の絆を取り戻し強固にすべく、トランスナショナルに展開する政治的文化的実践を開始した。なぜ90年代にトランスナショナル化が進んだのだろうか、そしてそれを可能にした社会背景は何だろうか。これらの問いに答えるためには、両国で行われた一連の政策と先住民族の運動を考察する必要があるという仮説のもと、本発表ではネオリベラル・マルチカルチュラリズムを中心として考察を行った。

アメリカの人類学者チャールズ・ヘイルは、ネオリベラル・マルチカルチュラリズムはラテンアメリカの国々で生まれた新しい統治の形であること、資本主義の論理に合致した多文化主義であること、そしてその核心はグローバル化した資本主義の論理に従って自らを統治する主体の創造であると主張する。彼の主張を出発点として、以下では両国におけるネオリベラル・マルチカルチュラリズムがヤキとクミアイに与えた影響とその帰結を述べる。

メキシコにおけるネオリベラル・マルチカルチュラリズムは先住民族の貧困化とトランスナショナル企業による土地や天然資源の収奪を招いた。観光産業を発展させ、先住民コミュニティの自活を促すべく、コミュニティにおける民芸品販売や（エコ）ツーリズムへの援助が増える一方で、サリーナス政権が推し進めた農地改革によって、農地を手放し、都市部へ移住し日雇い労働者となる者が急増した。加えて、国家による保護を失った先住民コミュニティでは土地や資源を巡ってトランスナショナル企業の脅威が増加した。メキシコ、ソノラ州のヤキの村では用水路とガスパイプラインの建設にあたって、ヤキの村とソノラ州政府およびトランスナショナル企業の間で対立が起こり、民族内部の衝突および分裂に繋がった。バハ・カリフォルニア州にあるクミアイのコミュニティでもワイン産業の発展に伴ってクミアイの土地の収奪や都市部への人口流失が顕著化している。

他方アメリカでは先住民運動（レッドパワー・ムーブメント）の結果、先住民族の自治権が強化され、居留地におけるカジノなどの部族ビジネスが進んだ。ビジネスで成功を収めたいくつかの部

族は、ロビーイングなどを通じて国家や州政府と交渉する力を獲得した。また、ビジネスの成功は文化復興とアイデンティティの再構築に一役買っている。アリゾナ州のパスクア・ヤキ部族政府は言語・文化部を立ち上げ、メキシコのヤキの協力のもと積極的に伝統文化の復興と継承を図っており、カリフォルニア州のクミアイの部族も居留地に博物館やコミュニティ・カレッジを設立し、言語の活性化および文化興隆に努めている。しかし、それと同時に部族ビジネスの拡大は部族メンバーシップの境界の厳格化を招いており、ネガティブな面も見られる。

このようにネオリベラル・マルチカルチュラリズムによって先住民族の経済的自立、および文化とアイデンティティの復興が促された結果、国境の両側において異なる帰結が生まれた。アメリカにおける政治的・経済的エンパワーメントとメキシコにおける貧困化、ならびに両国における文化的実践へのインセンティブである。また、先住民運動の高まりによって脱植民主義的思想が成熟し、国境を越えた抵抗と連帯の必要性が叫ばれ始め、国境の反対側の同胞と再接合し、連帯を強化することに繋がった。このような連帯の動きは主に文化的領域を中心に展開しており、国境を越えた儀礼参加、言語復興を目的としたイベントの開催、文化アイテムや民芸品の売買が行われている。私はこれを「トランスナショナルな交換」として捉えている。加えて、トランスナショナルな交換に不可欠である人とモノの越境を円滑化するため、アメリカの移民局への働きかけを通じて米国ビザの組織的な取得が行われた。その結果、長い間失われていた絆が取り戻されただけでなく、同じ文化を持つ「ひとつ」の民族であるという理解が広く共有されることとなった。「我々が国境をこえたのではない。国境が我々をこえたのだ（"We didn't cross the border, the border crossed us"）。」というディスコースはそれを端的に表しているといえるだろう。

クミアイとヤキのトランスナショナル化は偶然の産物ではなく、一連の政策とグローバルな先住民運動の高まりの帰結であるといえるだろう。そのプロセスの中で、国境を越える政治的・文化的アイデンティティが出現し、主に文化的領域に特化したトランスナショナル化が進んだのではないだろうか。しかし、ヘイルの主張しているように、この条件下で達成されるエンパワーメントにはグローバル経済や国家権力を脅かすことはできないという制限が加えられていることを忘れてはいけない。

現在、ヤキとクミアイには米墨国境という大きな壁が立ちはだかっている。国境の透過性の著し

い低下と国境地域の治安の悪化によって越境が益々困難になるだけでなく、市民権および部族メンバーシップの境界が厳格化したことで、同一民族内に持つ者と持たざる者の差がはっきりと現れた。アメリカとメキシコのコミュニティの間の著しい経済格差に加えて、入国審査と国境警備の厳格化はメキシコ側の構成員にとってより厳しいものであり、国家の力の差がそのまま表れる結果となっている。また、メキシコのコミュニティを支援するための経済プロジェクトが存在していないこともトランスナショナル化が限定的であることを示している。ネオリベラル・マルチカルチャリズムや先住民運動によって文化的領域における交換が体系化され、「ひとつ」の民族であるという認識が共有されている一方で、国家の統治性に絡めとられ、政治的・経済的な領域におけるトランスナショナル化は進んでいないといえるのではないだろうか。

[参考文献]

- 上杉富之、2004「人類学から見たトランスナショナリズム研究－研究の成立と展開及び転換」『日本常民文化紀要』24:126-84。
- Biolsi, Thomas, 2004. “Political and Legal Status (“Lower 48” States)”, Biolsi, Thomas (ed.). *A Companion to the Anthropology of American Indians*. Malden, Massachusetts, United States of America, Oxford, United Kingdom, Victoria, Australia: Blackwell Publishing, pp. 231-247.
- Comaroff, John L. and Comaroff, Jean, 2009. *Ethnicity Inc.*, Chicago and London: University of Chicago Press.
- Garduño Ruiz, Everardo, 2014. “El riesgo y el rescate. La tradición y la innovación como factores de identidad”. *Revista Digital Universitaria* [en línea], 15 (2), pp. 2-20.
- Hale, Charles, 2004. “Rethinking Indigenous Politics in the Era of the “Indio Permitido”, *Report on Race*, Part 1, pp16-21.
- Hale, Charles, 2005. “El protagonismo indígena: las políticas estatales y el nuevo racismo en la época del ‘indio permitido’”. En: Paz y democracia en Guatemala: desafíos pendientes. Memoria del Congreso Internacional de MINUGUA. “Construyendo la paz: Guatemala desde un enfoque comparado”. Ciudad de Guatemala, Guatemala: Fundación Propaz, pp. 51-66.

Hanson, Randel D., 2004. "Contemporary Globalization and Tribal Sovereignty", Biolsi, Thomas (ed), *A Companion to the Anthropology of American Indians*, Oxford, United Kingdom, Victoria, Australia: Blackwell Publishing, pp284-303.

Lerma Rodríguez, Enriqueta, 2015. "En busca de la autonomía entre los yaquis. Múltiples proyectos de desarrollo y una sola «gran verdad»". *Revista Pueblos y Fronteras digital* [en línea],10 (19), pp. 285-307.

Marcus, George, 1995. "Ethnography in/of the World System: The Emergence of Multi-Sited Ethnography", *Annual Review of Anthropology*, Vol. 24, pp. 95-117.

Miller, Mark Edwin, 2004, *Forgotten Tribes: Unrecognized Indians and Federal Acknowledgment Process*. Lincoln, Nebraska, United States of America: University of Nebraska Press.

Morris, Olea Elizabeth B. 2015. *Kumeyaay Across Borders: An Evaluation of Formal and Informal Approaches to Tribal Transportation Issues*. Tesis para obtener el grado de Master of Arts in Anthropology, San Diego State University, U.S.

Palomino Bertha, y Gustavo López, 2007. *Evaluación 2006 del Programa Ecoturismo en Zonas Indígenas. Informe final*. Universidad Nacional Autónoma de México, Instituto de Investigaciones Económicas.

http://www.CDI.gob.mx/coneval/evaluacion_ecoturismo_2006.pdf

Von Barsewisch, Alexandra, 2006. "'Tipai Uam': el recorrido indio. Kumeyaay courses astride la línea". *Culturales*, 2 (3), pp. 52-110